



「今年の抱負」

国家公務員共済組合連合会 名城病院長

早川 哲夫

名城病院では、今年も「良い医療を安全、確実に提供する」をめざします。これは医療の基本と考え、十年一日の如く、毎年、最初に書いております。

安全、確実に提供することは、簡単に見えるかも知れません。しかし、個人の寿命の力の方がはるかに大きいので、生命の尽きる時は医学、医療は残念ながら、無力です。

医療機器の主要なものは、この数年で新しくできたので、今年はこれら機器を効率良く活用するシステムが必要です。

診察の時に目の前にあるのがオーダーリングシステムです。これがその役目を果たしてきました。そろそろ10年になるので、新しいシステムを導入し、患者さんの各種のデータ、検査や治療の予定などを効率よく活用し、良い診療を円滑に提供できるように計画して

います。秋頃には新旧入れかえのため、一時的に御迷惑をかけるかと思っております。その節は、よろしくお願い致します。

病院内の診療環境の改善に今年も力を入れます。

院内禁煙には、皆さんご協力ありがとうございます。まだ吸っている方は、禁煙外来の助けを借りて、禁煙にチャレンジしてください。ご自分とご家族のがん、高血圧、脳卒中、心筋梗塞などの発生を防ぎます。

院内の暴言、暴力、セクハラはお陰で少しずつ減って来ました。しかし、少しでもあると、まわりの人への影響が大きく、診療の効果もあがりません。病院としては、警察の協力も得て、強制退院、出入禁止などの厳しい対応も考えています。安心して診療を受けられる環境作りにご協力をお願い致します。

新型インフルエンザは、今後数年間は流行すると思います。食べる前とトイレの後の手洗いを心がけて下さい。セキやくシャミのする時は、マスクをかけて下さい。日本は他の国よりも入院や死亡の割合がかなり低いとWHOの発表がありました。他人にうつされないように、手洗い、マスクをすることが、自分もインフルエンザにかからないために大切です。

春には8人の研修医と5～6人の専修医が来ます。山本五十六の「やって見せて、言ってみせて、やらせてみて、誉めてやらねば、人は動かす」のことは、彼らだけでなく、皆さんのつれあい、子、孫は勿論、多くの人にも大切です。暖かい目で育ててください。

民主党政権が生まれました。政治家にも山本元帥のことは必要です。良い医療政策を掲げていました。実現できたら、次の選挙でほめてやりましょう。選挙があったら、暮らしやすい日本をめざして、政治家も選びましょう。自分だけでなく、みんなにも大切です。

今年も皆さんの健康、安全、幸せを祈っております。

名城病院の携帯サイトを開設致しました

携帯電話でQRコードを読み取りアクセスしてください

<http://www.meijohosp.jp/mp/>



泌尿器科

泌尿器科部長

加藤

誠

夜間頻尿について

尿の貯留や排出に関する症状を下部尿路症状といいます。

わが国の調査では、60歳以上の高齢者では約78%が何らかの下部尿路症状を有しており、そのうち夜間頻尿、昼間頻尿は尿の勢いの低下や残尿感などの症状よりも多くなっています。

夜間頻尿は、夜間に排尿のために1回以上起きなければならないという訴えです。高齢者のほとんどが夜間の排尿回数は1回以上であり、2～3回以上になる

とQOL（生活の質）に影響し問題となります。排尿後すぐに寝つけなければ睡眠不足となり、転倒して骨折の原因となったりします。

夜間頻尿は、前立腺肥大症の代表的な症状とされますが、それ以外の原因もあり、その発生には、多尿・夜間多尿・夜間の膀胱の容量の低下などのさまざまな成因が関係しています。

高齢者では、夜間の就寝中に尿量の増加（夜間多尿）を認めることが多く、腎臓・心臓の機能低下などが

原因として考えられます。

夜間頻尿の原因が、夜間多尿によるのか、膀胱の容量の低下なのか、あるいは両者によるのかを明らかにすることが大切で、排尿記録をつけてもらいます。排尿記録などにより鑑別し、原因にあった治療を行います。

脳梗塞や心筋梗塞の予防のために過剰な水分摂取が原因の場合は、これを正せば改善します。

循環器センター

6階病棟部長 岩佐多恵子

救急救命士の病棟実習について

当循環器センターはほぼ毎日、冠動脈撮影の検査があります。

検査前には必ず静脈路の確保を行います。

今回、救急救命士の実習目的である「静脈路確保の手技能力の向上」の機会が多いということで、当循環器センターに3名の救急救命士の方が5日間ずつ実習を行いました。

静脈路の確保は指導医の

もと、介助は病棟看護師が行いました。

実習に来られた救急救命士の方は経験年数が10年以上のベテランでしたが、日常の現場では静脈路を確保する機会は少ないということでした。

かなり緊張した様子で、実習に真剣に取り組まれているのだと私自身も新鮮な気持ちになりました。

またもう1つの目的であ

る「看護ケアを学ぶ」についても積極的に実習されていました。

患者さんの移動介助などはスムーズで私達が勉強になる場面もありました。

普段救急外来で接しているときにはできない苦労話も聞くことができ、今回の実習を通しお互いの仕事を理解しあえる良い機会になったと思います。

NEWS

産婦人科病棟主任／日本糖尿病療養指導士

楠目恵子

糖尿病の方のためのフットケア外来開設

糖尿病の患者さんは足のさまざまな障害が出やすく、いったん重症化するとその治療には長い時間を要します。それだけに外来では、予防的フットケアの指導とともに、足を保護し、観察によって症状をいち早く見つけて治療することが大切だと思います。医療従事者にとってのフットケア

は、「少しでも長く歩ける足を守り、足から全身を診ること」とし、2009年9月よりフットケア外来

を開設することができました。しかし私自身まだ実績が少なく、周りの方は本当に大丈夫？という気持ちで見ているのが正直なところでしょうか。まずはスタッフの足で体験してはいかがでしょうか。「足を見せてもらえない？」と頼んだところ、「いや～足を見てもらうなんて…悪いのでいいです。」という答えが3人中3人も同じ反応でした。今回このような機会にめぐり合えたのもきっと私にとって有意義な経験でした。

先日行ったある男性患者さんは、爪も伸びて皮膚に

食い込み、擦過傷にも気づいていない状態でした。ケアを行っている中で、日常生活のこと、太っているため中々足が見にくいこと、自分で爪を切ったことがないなど、足に関心がないのかなと当初は思っていました。自分では足を観察できない、実際に爪を切ることができない人もいることを知ることができました。

ちょっとしたきっかけで、患者さんが自分の身体に関心をもち意識を向けてもらえるような支援ができればいいなと考えています。



病棟紹介
「ハロウィンフェスティバル」

名城病院12階病棟は、小児（循環器）科・小児整形外科を主科とした病棟です。子どもたちの入院が中心となる病棟ですが、病院の構造上の問題もあり、病棟自体が殺風景で小児病棟としての環境には魅力がなく、淋しいものがあります。

そこで、今年の小集団活動メンバーが立ち上がり、～小児目線の病棟を目指して～をテーマに子どもたちが少しでも病棟で「季節感を感じることができる」を目標に10月はハロウィン企画し、小児

12階病棟師長 小澤加奈子



科医師・研修医・医事課担当者・企画係長などの参加・協力のもと、様々な仮装を施しました。

皆さん、ハロウィンと仮装の由来をご存じですか？

ハロウィンの夜に家のまわりを徘徊し人間にとりつこうとする悪霊たちが、その姿を見て驚いて逃げるようにするためと言われています。病気（悪霊）を持つ子どもたちが一日も早く元気で退院できることを願い、仮装した姿で一部屋ごと訪問し楽しい時間を過ごしてもらおうことができま

した。

長期にベッド上での入院生活を強いられている子どもたちにとっては、変化のある日常生活とほんの一時でも笑顔がこぼれるような瞬間を作ってあげたいという思いで一杯です。

私自身、子どもたちの会話や笑顔でたくさんの癒しとエネルギーをもらっています。

これからも、スタッフ一同小児の目線に立ち、明るい笑顔や笑い声の絶えない病棟づくりに努めていきたいと思っています。

レポート
共済医学会に参加して

共済医学会に参加させていただくにあたり、看護研究では「音楽療法を取り入れた治療中の痛みを和らげる効果」というテーマで取り組んできました。

今日、音楽療法が代替療法として注目されており、音楽を聴くことは不安、緊張、苦痛の緩和に有効であるといわれています。この音楽療法に着目し、苦痛を伴う治療に音楽を取り入れ、研究を進めま

した。

患者さんへの聞き取り調査では、3名中すべての患者さんが治療の痛みは軽減しなかったが、好きな音楽を治療中に流すことで、治療に対する緊張が緩和したとの返答を得ることができました。

今回、看護研究への取り組みは初めてで戸惑うことが多くあり、十分に研究データを収集することができませんでした。しかし、多くの先輩方にアドバイスをいただき支えられながら看護研究に取り組むことで、多くの学びを得ることができました。

又、共済医学会に参加することにより、看護実践に役立つ知見や情報が得られました。中でも、点滴治療を受ける幼児期患児のプレパレーションについての研究発表で

は、患児の処置や治療をスムーズに行うための必要性・有効性を示しており、検査や手術が多く行われている当病棟でもプレパレーションの必要性を感じました。患児の処置や治療のストレスを最小限にしてスムーズに行えるよう、小児の目線に合わせた看護を実施することの重要性を学ぶことができました。

看護研究は実際の看護の現場で行われる看護実践の向上と看護学の発展のためになされるものです。

私たち看護師が患者さんのために良いケアをしたい、そのためにはどのようにしたらよいかという探究心を持ち、根拠に基づいた看護ケアの実践を目指し、これからも看護師として日々努めていきたいと思っています。

看護部 中村広美



保健指導室

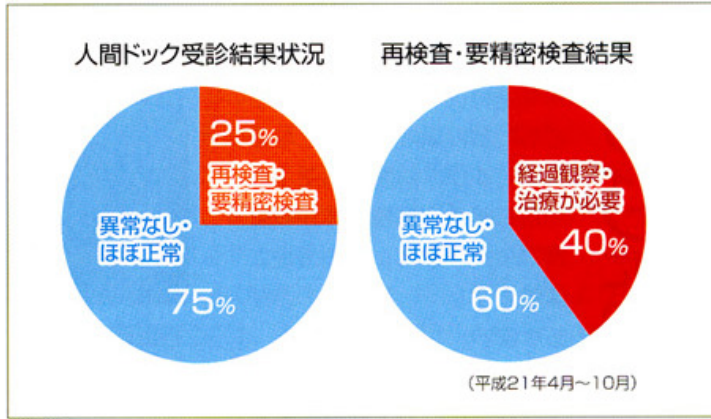
「人間ドック」について

平素は名城病院人間ドックをご利用いただき誠にありがとうございます。

人間ドックの内容として、平成20年から開始された特定健康診査の項目を含んだ内容（BMI、腹囲測定、内科診察、尿、血液ほか）で、おこなっています。

年間約2,000件の人間ドックを利用して頂いておりますが、平成21年4月から10月の人間ドック受診者の中から約500人の方に再検査、精密検査のお知らせをし、実際精密検査を受けた方のうち40%の方に経過観察・治療を必要とする結果が出ています。

成人病といわれる癌、心臓病、脳卒中などはいずれも初期には自覚症状はなく、無症状のまま進行している場合が少なくありません。



初期に発見し、早期に治療をするため当院の人間ドックをご利用ください。

また、以前より希望があった人間ドックの健診結果を、医師が毎週水曜日の午後（15時～16時、4名まで）から無料で説明しています。ご希望の方は電話または人間ドック窓口で予約を受け付けています。

平成22年4月より検査項目から一部（前立腺腫瘍マ-

ーカー・婦人科・乳がん健診）をオプションとし、さらに受診しやすい内容に変更しました。

総合健診として、人間ドックの他に脳ドック・心臓ドック、骨盤腔ドック・肺がんドック・腰椎ドックを実施しております。あわせてこちらの健診もご利用下さい。

スタッフ一同、笑顔と真心で皆様の健康をサポートさせていただきます。

保健指導室主任 森田良子

編集



(平城京跡)

新型インフルエンザと政権交代に揺れた1年が終わり、新しい年が明けました。2010年、21世紀になって10年めの年です。名城病院も新棟に移転して10年め、「わ」が定期的に発行されるようになって8年めになります。名古屋は開府400年、奈良は平城遷都1300年です。数年前通ったとき、平城宮跡は広い原っぱでした。1300年前この地に生きた人々も、政情不安と疫病に苦しみながら、華やかな天平文化を咲かせました。新型インフルエンザは今年も続きそうですし、医療をめぐる状況は厳しいでしょうが、困難に挑んでいけるエネルギーを持ちたいと思います。新しい年が、私たちに希望をもたらしてくれそうですように。

S・H

後記

名城病院診療等のご案内

ホームページはこちら <http://www.meijohosp.jp>

診療科目

内科・循環器科・小児科（小児循環器）
外科・整形外科・脳神経外科・心臓血管外科
皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科
歯科口腔外科・神経内科

診察受付時間

【新患受付】 午前8:30～11:30まで
【再来受付】 午前8:00～11:30まで

面会時間

【一般】 午後0:30～8:00まで
【新生児】 午後0:30～8:00まで（授乳時間を除く）
【ICU】 午後0:30～4:30まで（家族のみ）
午後5:00～8:00まで

※生花の病室への持込は、感染予防のためご遠慮願います。

診療案内

【休診日】 土曜日・日曜日・祝日
年末年始（12月29日～1月3日）
創立記念日（11月6日）

所在地

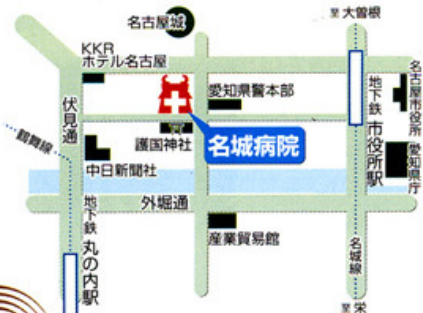
〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1
TEL (052) 201-5311 FAX (052) 201-5318

お問合せは、

- ・ 午後の診療等、詳しくは、医事課まで（内線2132）
- ・ 医療福祉に関しては、医療福祉相談室まで（内線5105）

医療機関の方へ

- ・ 病診連携に関しては、病診連携室まで（内線2151）



名城病院は、病院機能評価の認定を受け、よりよい医療を提供できるよう努力しています。